けるリビア方式の非核化方

る。

もし、北朝鮮が再び 」を北朝鮮に突き付け

核・ミサイル実験を再開す

米国の北朝鮮への

不可逆的な非核化(CVI

のバランスの取れた外

が醸成され不安定な状況に 朝鮮に「完全で査察可能で 島情勢をめぐり緊迫と期待 北東アジア情勢は朝鮮半 トランプ大統領は北 式に対して、北朝鮮はイラ 中国がバックアップしてご 化)を望み、その北朝鮮を ン方式(段階を踏んだ非核

い。その可能性は50対50 先制攻撃となり得る。 ることになるかもしれな 戦争の平和条約が締結され 脳会談」が開催され、朝鮮 て「妥協」すれば「米朝首 た。米国が北朝鮮に突き付 逆に、北朝鮮が受け入れ

北朝鮮をカードとして使い複雑化米中貿易交渉を有利にしたい中国

り事は複雑化している。 るという構図だ。つまり、 利に運ぼうという図式があ 中国が北朝鮮をカードとし 中国との間の相関関係にあ て使い、米中貿易交渉を有 北朝鮮の核問題は米国と も起きやすい状況となる。 る。「パワー・パラドック クス」の時代に突入してい させる「パワー・ 中の「パワーの拮抗」を予感 の脆弱性が増し、紛争が最 る直前に出現するが、この 時には覇権国と挑戦国双方 ス」の時期は覇権が移行す 現在の北東アジアは、米 パラドッ

急激で例がない速さのパワー・シフト 世界の経済生産の18%を占める中国

避するかが課題となる。現 の時代の到来」をいかに回 北東アジアでこの「危機 中国が世界にもたらし ていると政治学者のグレア パワー・シフトはいまだか ている急激な地殻変動的な つて例がない速さで起こっ 想主義と現実主義の抗争で

北東アジア情勢と日米安保の役割

第一回 米中経済紛争で高まる 地政学的リスク



拓殖大学海外事情研究所所長 可

の駆け引きが展開されるなか、2回の「中朝首脳会談」で存在力を示した中国 外交・安全保障の専門家である川上高司拓殖大学海外事情研究所所長が、北朝鮮 示すとともに、同盟国・トランプ米大統領との強固な連携を打ち出した。今回: 問題など北東アジア情勢の激変に伴う日米安保の役割について4回連載で語る。 京で行われた「日・中・韓首脳会談」で北東アジアの新たな秩序の構築に意欲を は、「一帯一路」で東南アジア進出を図る。一方、安倍晋三総理は5月上旬に東 国際社会が期待と不安を持って注目する「米朝首脳会談」。開催に向けた両国

ランジッション(覇権交 代)がまさに起ころうとし 国と中国の間でパワー・ト る。言い換えるならば、米

世界の経済生産の18%を占 のの、それも時間の問題で 16%。そして2019年に あろうと推測される。 国は中国を上回っているも である。まだ軍事力では米 国に経済で抜かれているの 予測する。米国はすでに中 は2016年時点で中国が は米国経済を20%上回ると めているのに対して、 さらに、IMFの統計で

界大戦までの20年間は、理 カーは、第2次世界大戦が 治学者で外交官のE・H・ 始まる直前に『危機の20 性は十分あることになる。 それゆえ米中衝突の可能 かつて英国の歴史家、政 次世界大戦から第2次世 、そこで第 ことを忘れてはならない。 果たす役割は大きい。この のとれた外交が肝心である 起こりにくくなる。 れば抑止機能が働き紛争は 同盟がしっかり機能してい 話」と「抑止」のバランス 鍵となろう。 確保するために日米同盟が この地域の平和と安定を

化時代の日米同盟』

2位となる」と発表され が)を抜く見通しで米国は た。IMFは各国の国内総 Fの年次総会で、 米国経済(17兆4000億 済(17兆6000億心)が の世界銀行グループとIM ム・アリソン米ハーバ 入学教授は指摘する。 具体的には、2014年 「中国経 大戦が終わり、戦争による る戦争に対して無条件に 怖から、欧州では「あらゆ あったことを提示した。 かの間の平和」に酔い が台頭し欧州の人々は 膨大な被害への反省と恐 反対する」という平和主義 この時期は、 第一次世界

価(PPP)で算出してい 生産 (GDP) を購買力平 米国 る。 みると、米中の経済紛争 突入してしまったのであ を怠ったために紛争を回避 とする欧州諸国が宥和政策 できずに第2次世界大戦に を選択し現実的な抑止対策 その結果、英国をはじめ 現在の北東アジア情勢を

的リスクを高めている。そ のため、米中はお互いに戦 米中が紛争を回避するかが 略的抑制をし、いかにして 防衛問題とリンクし地政学 が、北朝鮮の核問題という 川上 高司(かわかみ・たかし)

『米軍の前方展開と日米同盟』 『国際秩序の解体と統合』な

ど多数。

成17年から現職。専門は安全保障論。趣味は気功やレ 究所主任研究官、北陸大学法学部教授などを歴任し平 博士(国際公共政策)。米外交政策分析研究所(IF PA)研究員、(財)世界平和研究所研究員、防衛研 『アメリカ世界を読む』 コード鑑賞。 著書は 『トランプ後の世界秩序』 『無極 拓殖大学教授。昭和30年、熊本県生まれ。大阪大学